

令和 6 年度（2024）

上 期 事 業 報 告 書

自:令和 6年 4月 1日

至:令和 6年 9月30日

【重点項目】

- 1 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする
- 2 プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる
- 3 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

社会福祉法人 おおぎだ

目 次

令和6年度(2024)上期事業報告

事務局.....	p1
特別養護老人ホームローズヒル(従来型)(ユニット型)	p4
短期入所生活介護(従来型)(ユニット型)	p5
茂呂デイサービスセンター	p6
美茂呂デイサービスセンター	p7
ケアハウス菜の花.....	p8
茂呂ヘルプサービスセンター	p9
茂呂居宅介護支援事業所.....	p10
厨房部門	p11

事務局

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1)地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

家族の意向と現場の実情を踏まえ受け入れを円滑にするために、今年度から特養のチームは相談員の業務も兼務としました。面会制限も解除され、家族の意向がサービスに反映できるように努めています。また、デイサービスだけでなく、特養相談員のミニデイサービスへの参加や、地域のお祭りにも参加し、地域の皆様と顔の見える関係性の構築を目指しています。

(2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

在宅部門（デイやショート）から入所部門（特養）へ繋ぎ、看取りとなったケースが増えています。看取り後、家族と振り返る機会を設けることもできました。遺族へのケアにより、職員の経験の蓄積にも繋がりました。また、職員の日々の具体的な行動を観察し、プロセスを評価する機会を設けています。赤城エリアでは「やさしさプロジェクト」が発足し、妙義エリアでは「ユマニチュード」というケアの方法を学び、主体的に学ぶ機会が増えました。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

今年度より、BCP(事業継続計画)を作成しました。下期は作成したBCPをより機能的に活用するために見直しをしていきます。また、今まで紙で残していたケア記録を、電子化することができました。下期に結果をまとめていきたいと思ひます。今年度新たに始まった取り組みとして、介護職員の負担軽減やサービスの質の向上を目的とした為の(業務改善委員会)、デイサービスの送迎の委託を見据えた「福祉Mover」の活用などを行っています。ケアの質の向上と職場環境の改善をデジタルとアナログを活用し実施していきます。

2 管理運営

	項 目	内 容	R6 年度 (2024) 上期実績	R5 年度(2023) 上期との比較
1	理事会・評議員会の開催	(1)第1回定例理事会 第1号議案 経理規程の改正 第2号議案 経理規程細則の改正 第3号議案 令和5年度事業報告書 第4号議案 令和5年度決算報告書～ 監事監査 第5号議案 評議員会の議案等 第1号報告事項 理事長の職務の執行状況 (2)定時評議員会 第1号報告事項 令和5年度事業報告書 第1号議案 令和5年度計算書類及び財産 目録～監査報告 (3)法人事務局会議	5月31日 6月17日 3回	5月29日 6月14日
2	施設運営管理	(1)運営会議の開催 (2)法令管理体制委員会の開催	2回 1回	2回
3	予算・事業	(1)月次決算報告	2回	2回

	計画管理	(2) 管理者会議の開催	25 回	20 回
4	人事・組織 管理・人材 育成	(1) 人材確保(障害者雇用 1 名含む) (2) 評価、処遇調査、個人面接実施 (3) 基準就業日 カレンダー (4) 組織図(基準) (5) 学生アルバイトの受入 (6) 自己研修の支援 (7) 介護支援専門員更新/再研の支援 (8) 「ぐんま介護人材育成認証事業者」 (9) 階層別研修 (10) 業務改善委員会	入職者 7 名 退職者 8 名 各部署報告 各部署報告 各部署報告 2 回	6 名 6 名
5	自己研修	(1) OJT、OFF-JT の活用 (2) 資格取得の支援	各部署報告 各部署報告	
6	防災対策	(1) 消防訓練(水害訓練)全体 デイ報告 (2) <u>BCP</u> の研修及び、訓練 (3) 備蓄食料の点検 (4) 建物・消防器具点検 (5) 消防設備点検 (6) 防災委員会の開催 (安全衛生委員会と同日開催)	2 回/年 9 月 各部署報告 1 回/年 9 月 2 回/年 9 月 2 回/年 9 月 9 月	9 月 9 月 9 月 9 月 9 月
7	施設・設備 維持管理	(1) 業務委託契約の見直し (2) 固定資産点検(たな卸し) (3) 空調・ボイラー設備点検 (4) 全館定期清掃 (5) 受水槽・清掃消毒・水質検査 (6) 飲料用水水質検査 (7) 厨房害虫調査 (8) エレベーター定期検査点検 (9) エレベーターメンテナンス (10) 浴槽ろ過装置メンテナンス (11) 浴槽水質検査	0 件 9 月 9 月 5 月 毎日 6 回 1 回/年 7 月 毎月 6 回 ケア 6 月・デイ 8 月 <u>美茂呂 5 月</u> 茂呂・ケア 8 月	1 件 6 月 9 月 5 月 毎日 6 回 6 回 8 月 8 月
8	安全衛生	(1) 安全衛生委員会の開催 (新型コロナウイルス感染防止含む) <u>対策本部設置</u> ①産業医との打ち合わせ ②施設内、美茂呂デイスサービス巡視 (2) 感染対策委員会の開催 (3) 事故防止委員会の開催 (4) 職員健康診断 (5) インフルエンザ予防接種	定例・臨時 6 回 <u>7/18～8/2</u> 6 回 6 回 各部署報告 各部署報告 夜勤者 4 月	定例・臨時 7 回 8/20～8/31 6 回 4 回

		(6) ストレスチェック (7) 腰痛予防アンケート(特養のみ) (8) アルコールチェック	11月予定 2回/年 9月 毎日実施	
9	サービスの向上	(1) 連携会議の開催 (2) 苦情改善委員会の開催 *詳細は正面玄関にて公開 (3) 入所検討・判定委員会の開催	6回 9月 苦情受付2件 皆様の声0件 特養報告	6回 9月 苦情2件 皆様の声0件
10	地域福祉関係 (地域・家族への広報活動)	(1) ミニデいの参加と応援 (2) おおぎだだよりの発行 (3) ホームページの更新 (4) 給食&広報委員会の同日開催 (5) ボランティアの積極的受入 (6) ボランティアとの意見交換会と感謝会 (7) 民生委員・地域への広報活動 (8) 実習生・介護体験・職場体験、インターンシップ等の積極的受入 (9) 「知ってもらおう介護の仕事」訪問 (10)伊勢崎市オープンガーデン参加 (11)地域貢献 フードバンク活動支援へ非常食配布 (12)指定福祉避難所 開設・運営	各部署報告 4月 随時更新中 6回 支援ボラ 8名 延べ 138回 地域夏祭り参加 実習生 4名 パンフレット配布予定 5月11・12日 1回 運営計画作成	6回 支援ボラ7名 延べ82回 民生委員会 議挨拶 実習生1名 パンフレット 配布 5月13・14 2回
11	福利厚生	(1) 親睦会への補助 (2) 表彰規程の活用 (功労者への報奨制度) ①永年表彰 ②アイデア提案表彰 ③職員募集功労賞 (3) 被服(ユニホーム)貸与 (4) ユニホーム棚卸し整理	20年3名 10年4名 5名 2名 全職員	20年1名 10年8名 3名 0名 6月

特別養護老人ホームローズヒル（従来型・ユニット型）

おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① 地域で開催されているミニデイに参加し、地域で生活する高齢者の理解等に努めた。年間を通して参加を予定しており、継続していく。
- ② 3 人のチーフが相談員となり、入所相談及び契約手続、面会時などに家族の意向やニーズの把握に努めている。相談員の課題について振り返りながら役割や業務の確認を行い、継続していく。

(2) プロ意識をもって、主体的に働く職員を育てる

- ① 各丁目及びリーダー会議の開催が定着化することで、より個別的に寄り添った介護の提供へと繋がっている。赤城では唾を吐きづづける利用者が清潔に過ごせるよう、床に吸収マットを敷く、体動が激しく常に外傷を作ってしまう利用者の環境調整の工夫等を継続している。この方は、並行して看取り介護も実践中である。榛名では、うつ病で不安が大きく独語が激しい利用者の症状の観察を継続、薬剤と日常生活の調整を繰り返しながら、穏やかな生活ができるように介護を実践中である。榛名では、看取り介護を3件実践できた。誤嚥のリスクを回避する寸前の時期まで家族の意向のもと、食事介助が出来たケース、危篤状態の中、職員全員で声をかける、体をさすることで深呼吸を促し、家族が来所するまで利用者が頑張られたケースなどを体験できた。その結果、家族から「ローズヒルでよかった」との感謝の言葉を頂けた。
- ② 部署間で応援を行うことで有給休暇の取得に繋がっている。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① コロナウイルス感染症によるクラスター（赤城・妙義1階）、疥癬の発症、夏季の暑さによる体調不良者が出た際には、部署間の応援を実施している。感染拡大することなく、1つの丁目内で終息できた。
特に、1階妙義のクラスターは、はじめての経験であり、シミュレーション事例ではなく、実地での学びとなった。感染が拡大しても安定した運営ができるように人員確保や、業務改善が課題である。
- ② 徘徊する感染者に対するカメラでの観察は、感染予防と介護の一助となることがわかった。ICT 機器が、部署内の課題解決の助けとなるのかを検討していく。
- ③ 安全対策担当者研修へ参加できた。加算の取得が課題である。
上期看取り実績 3 件 実習受け入れ 2 名 研修参加者 5 名
- ④ ベッド稼働率実績（短期入所と合わせ）
従来型 93.5% ユニット型 91.3% （R5 上期 従来型 93.5% ユニット型 97.5%）

短期入所生活介護（従来型・ユニット型）

おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① 本人や介護者の体調不良によりショート利用の相談を受けることが多かった。空きベッドを利用して、柔軟に緊急利用や長期利用の受け入れを行った。

緊急利用受け入れ 6 件 長期利用受け入れ 12 件

- ② 自事業所のケアマネジャーをはじめ、他事業所のケアマネジャー、病院の医療ソーシャルワーカー（MSW）とも連携を図り新規利用に繋ぐことができた。

自事業所からの新規受け入れ 11 件

他事業所からの新規受け入れ 13 件

医療ソーシャルワーカーからの新規受け入れ 4 件

- ③ 利用希望者の医療的ニーズへの対応について検討を図り、医療・介護の連携に努めたが、ニーズに対して対応が難しいケースが多かった。

検討の結果受け入れ 4 件 （糖尿病、心臓疾患、膀胱留置カテーテル使用）

(2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ① ショートステイから長期入所に移行 9 件

人生会議が浸透できるような取り組みは今後の課題。

ほか、特別養護老人ホームローズヒル（従来型・ユニット型）併設ショートの為、ローズヒルに同じ。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① コロナウイルスの感染が確認された際には、ケアマネジャー、家族と相談のうえ、他エリアでの受け入れを行った。

- ② 新規利用者数 28 件 (R5 21 件)

- ③ 目標ベッド稼働率(長期入所と合わせ)

従来型 93.5% ユニット型 91.3%

茂呂デイサービスセンター

1 おおぎだ重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① 午後からの入浴(月～土)や短時間利用、延長利用(上期3名)に対応した。
- ② 1ヶ月に3つのレクリエーションを用意し、選択していただき行った。
運動機器を用意し、リハビリに幅を持たせることは、下期に行っていく。
- ③ 介護度の高い方の受け入れ(要介護4:月延べ平均69名、要介護5:月延べ平均56名)や、サービス困難事例(1名)にも対応できた。
- ④ 地域のミニデイに参加(北千木町2回、今泉1丁目1回)し、参加者や民生委員にデイでの運動やレクリエーションを紹介した。
- ⑤ ショートや訪問、ケアハウスの職員と連携し、チームで利用者を支えることができた。
(ローズヒルショート利用9名、ケアハウス利用者6名)
- ⑥ 群馬県立伊勢崎特別支援学校6年生との交流会(6月)

(2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ① 電子化された記録業務は、パート職員以外全員行っている。
- ② 業務分担の再検討と教育できる体制作りは下期に行う。(業務の洗い出しは出来た)
- ③ 研修での事例発表は下期で行う予定。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① 利用者1日平均25名の目標に対して、上期20名。

新規利用者11名(前年度上期6名)。お試し利用11名。担当者会議22件。

介護度	年度	R4 年度上期	R5 年度上期	R6 年度上期	前年同期比
要支援1・2		45	95	0	0%
要介護1～5		3,453	3,190	3,105	97%
計		3,498	3,285	3,105	95%

- ② 茂呂デイ通信、空き情報、実績配布を毎月継続。地域のミニデイでPRできた。
- ③ 防災訓練(水害・消防訓練)を特養と合同で行った。(9/18)

2 その他

- (1) デイサービス運営会議で情報交換を行うとともに、送迎や兼務職員の業務を美茂呂デイ・事務と協力して行った。
- (2) デイ研修6回
(4月:個人目標設定、5月:安全運転、6月:感染症予防、7月:業務継続計画とは
8月:高齢者虐待防止、9月:認知症ケア・ユマニチュード)
- (3) 虐待防止委員会・感染症対策委員会・業務継続計画見直し(令和6年度から義務化)
- (4) お花見ドライブ、プランターの花植え、季節の制作、おやつ作り(食パンロールケーキ・おはぎ)、夏祭り、出前ランチ等を行った。
- (5) 老人福祉施設協議会のフォトコンテストに参加。
- (6) 実習生の受け入れ(2名)

美茂呂デイサービスセンター

1 おおぎだ重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① 個々の趣向や、やりたい事に応じ、卓球や麻雀の場を提供することができた。
- ② 個別機能訓練加算が廃止になったが、引き続き要支援利用者の個別リハを看護師が行っている。リハビリメニューを個々に合った形で作り、全職員が対応する為の体制作りを行っている。
- ③ 地域のミニデイに参加(北千木町1回、今泉1丁目1回)し、参加者や民生委員にデイでの運動やレクリエーションを紹介できた。

(2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ① 記録の電子化では、職員全員が記録をできるようになり、業務の効率化が図れた。
- ② 新入職員に丁寧にわかりやすく教えられる体制を作る(マニュアルの整備とレベルアップ)については進行中。
- ③ パソコンを一台増やしたことで、フロア職員の人数を見ながら、報告書や担当者会議議事録などの作成ができた。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① 利用者 1日平均 16名 の目標に対しては、上期 18名。

新規利用者 17名(前年度上期 18名) お試し 26件 担当者会議44件

介護度	年度	R4年度上期	R5年度上期	R6 年度上期	前年同期比
要支援 1・2		372	379	404	107%
要介護 1～5		1,574	1,790	2,430	136%
計		1,946	2,169	2,834	131%

- ② 月初めの実績配布時では、「みもろだより」の配布や活動報告、次月の予定や美茂呂デイのアピールを行い、営業に努めている。
- ③ 防災訓練 9/24

2 その他

- (1) デイサービス運営会議で情報交換を行うとともに、送迎や兼務職員の業務を茂呂デイ・事務と協力して行った。
- (2) デイ研修6回
(4月:個人目標設定、5月:安全運転、6月:感染症予防、7月:業務継続計画とは
8月:高齢者虐待防止、9月:認知症ケア・ユマニチュード)
- (3) 虐待防止委員会・感染症対策委員会・業務継続計画見直し(令和6年度から義務化)
- (4) 創作活動では、季節の壁面飾りや、個々に季節の制作を行い、利用者に持ち帰っていただいた。
- (5) 朝顔等の花植えやジャガイモを育て、収穫を楽しむことができた。
- (6) おやつ作り(食パンロールケーキ・おはぎ)や夏祭りを行った。
- (7) 老人福祉施設協議会のフォトコンテストに参加。

ケアハウス菜の花

1 おおぎだ重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① 伊勢崎市主催のオープンガーデン(5/11、12)に参加。11日 ISP 楽団演奏。
計 105 名の見学。(令和 5 年 104 名、令和 4 年 92 名)
- ② 「北千木作品展」・「南千木作品展」や「群馬県立伊勢崎特別支援学校の運動会、文化祭」は下期で参加交流を図る。

(2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ① 月 1 回居室訪問を行っています。お困りごとと不安等を傾聴し、引き続き安心、安全、安楽の環境で過ごせるように訪問しています。
6 月に集中して 13 人の家族面談を行なった。
- ② 他部署より、パンフレットがほしい方の紹介があり、見学へと繋がった。
- ③ 外部居宅介護支援事業所 3 件(ケアプラン Green Rose 伊勢崎社協、
宮郷介護支援センター)
- ④ 外部デイサービス事業所 3 件(坂東デイサービス、健康サポートげんき太田町、
リハビリパークフレンド)利用している。
- ⑤ 毎月 15 名定員を目標に対して 98%稼働となった。(昨年上期98%)
- ⑥ 新入職員が基本的な業務を理解する為や、不在時に誰でも業務が出来るように「手順書」を作成し、整備を継続中。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① マニュアルの整備、感染症・災害に係る業務継続計画の策定と見直しを行う。
- ② 冷蔵庫点検、緊急時連絡ボタン点検を 9 月に実施。
- ③ 消防・水害訓練 9 月参加。 3 人
- ④ 入居者の結核健診は 12 人実施済み。
- ⑤ 緊急時の入居者、家族、職員の連絡体制の確認は 6 月実施済み。

2 定例会議・研修

施設内

感染対策委員会(5/8・9/11)	研修会(6/12)
事故発生防止委員会(5/8・9/11)	研修会(8/8)
身体拘束適正化委員会(7/10・9/11)	研修会(6/12)
虐待防止委員会(6/12)	研修会(7/10)

施設外 群馬県老人福祉施設協議会主催

情報交換会(7/23) 2名 社会福祉総合センター
施設見学会(9/25) 1名(あじさい、ラ・メゾン・アミカル)

3 行事

- 5 月 結核健診、オープンガーデン実施、誕生会
- 6 月 家族面談会
- 7 月 蓮見学、誕生会
- 9 月 敬老会、消防(昼想定)・水害訓練参加

茂呂ヘルプサービスセンター

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① 利用者の状態や自宅の環境に合わせた臨機応変な対応や利用者やその家族に寄り添って思いやりをもち相手の立場に立ってケアできた。
- ② 有償運送は3件実施し、利用者・その家族に満足していただき順調に行っている。問い合わせも多数いただけている。

(2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ① 認知症の方でも入所になる直前まで在宅生活が継続できるように支援できた。
- ② 最後まで看取るのビジョンの元、家族の希望により在宅で生活を希望される方に対しケアマネジャーや他のサービスとの連携を密にし、食事介助、排泄介助はもちろんの事、些細な状態変化も見逃さずにその人らしい生活を支援できた。
- ③ ヘルパー会議を毎月開催し、サービスの統一を図るための手順・注意点などの確認や、担当ヘルパーからの意見を収集し、問題点の解決に努めることができた。ただ、手順書の作成までには至っていない。研修会では感染対策の食中毒予防の6つのポイントを学び業務の再確認を行った。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する。

目標月平均 650 時間に対し、541 時間と目標には届いていない。毎日利用の方の入院、サービス終了、施設入所、ショート利用、デイ利用等の理由と思われる。また、新規利用者は増えているが週1回利用の方が多く、利用者数に対し利用時間が増えていない。感染者に対してサービスの提案や実施が出来た。

① 利用時間

サービス提供時間 月平均 実績＝ 539 時間（目標＝650 時間以上）

上期月平均	令和 4 年度(2022)	令和 5 年度(2023)	令和 6 年度(2024)
9 月末 利用時間	616 時間	575 時間	521 時間
9 月末 自費時間	4 時間	0 時間	0 時間
上期平均時間	633 時間	557 時間	539 時間

② 介護度別利用者数

合計 53 人(前年度 52 人)

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
6 人	10 人	12 人	14 人	8 人	3 人	0 人

③ 新規利用 10 人<要支援 3 人 要介護 7 人> (前年度 6 人)

④ 時間追加希望 8 人 (前年度 3 人)

2 会議・委員会・研修会

ヘルパー会議 毎月開催

虐待防止研修・虐待防止委員会(年1回) 1回開催(5/30)

感染対策研修・感染対策委員会(年2回) 1回開催(6/27)

看取り・人生会議について 1回開催 (8/29)

茂呂居宅介護支援事業所

1 おおぎだ重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① 民生委員から独居の方の情報を頂き利用に繋げ、急変時にも連携を取り合い対応が行えた。
- ② サービス利用に対して拒否が強い利用者に対して、利用者に合ったサービス事業所を選択して連携をとり、本人の状態に合わせて支援をしてもらう事で拒否なく利用に繋げる事ができた。

(2) プロ意識を持って主体的に働く職員を育てる

- ① 主任介護支援専門員の更新研修(R6年5/9～6/20 8回)2名行えた。
- ② 4月から新人ケアマネが増えたが、基本的スキルはほぼ身に着けることができ、業務をこなせている。
8/7に伊勢崎市指導監査課による実地指導が行われたが、ケアプランに不備等はなく、大きな指摘事項はなかった。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① 毎月の安全衛生委員会にて、感染状況や対策など確認している。
防災訓練(9/18実施)に3名参加した。
- ② 請求業務に関しては、要支援の請求業務は複数人で行う体制ができた。

2 サービス目標

(1) 目標利用者数

ケアマネジャー 1人あたりの件数 39 件(要支援15件(0.5換算) 要介護33件)

全体目標 要支援 60 件 要介護 132 件 (月)

年度	介護度	要支援	要介護
令和4年(2022年)		44	92
令和5年(2023年)		41	101
令和6年(2024年)		42	102

※ 利用者件数(月単位 小数点以下四捨五入)

昨年度までは目標達成は行えていたが、今年度は未達成である。

(2) 加算取得等

- ① 特定事業所集中減算に対しては対象外を維持することができた。
- ② 9月よりサービス提供票に関しては印刷をせず直接 FAX にて送付する事によりコピー用紙 800 枚程度、3 時間程かかったが作業が 30 分～1 時間程度で終了することができ、業務の簡素化を図れた。
- ③ 初回加算 26 件(R5 15 件)、入院時加算は13件取得。(R5 12 件)
家族・本人からの依頼 8 件(R5 4 件)、民生委員 包括支援センター・病院からの紹介 4 件(R5 5 件)
他の居宅事業所からの引継ぎ 4 件 施設からの紹介 2 件
要支援から要介護状態に変更 7 件 知人 1 件
- ④ 昨年度まではケアマネ 3 人体制で過剰性を用いていた事もあり全ての紹介を受ける事ができなかったが、今年度1名増員となった事により、紹介は全て利用に繋げる事ができている。

厨房部門

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

日常の食事から季節を感じて頂けるような食事提供、またイベント食を月に4回以上実施し、毎日がご利用者様にとって楽しく、充実した食事の時間を目指した。

- ① イベント食として季節の行事食、セレクト食、健幸御膳、グリーンハウス年間共通イベント「～懐かしのあの味を求めて～昭和食堂へようこそ」を毎月実施した。
- ② 各部署の行事計画に沿ったサービスを提供した。
(誕生日会やおやつ作りの材料等用意・提案、イベントに対応した食事の変更等)
- ③ 毎月1日の昼食はお赤飯提供。月に1回日曜日の昼食は特養にパン提供。
毎週日曜日はケアハウスにパン提供。
- ④ 給食サービス委員会からの意見を踏まえた食事提供。
- ⑤ 本人の意向や身体状況、喫食率の把握、また他職種との連携から利用者一人ひとりに合った食事の提供を通して、利用者の健康維持・増進を目指す。
- ⑥ 栄養ケアマネジメントによる個々の栄養管理の実施。
- ⑦ 栄養帳票の管理による適切な栄養量の提供。

提供栄養量(上期平均) エネルギー 1401 kcal、たんぱく質 56.9g、食塩 8.5g

(2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

一人ひとりの役割を持って技術を磨き、食品衛生に関する知識を得て、安心・安全で美味しい食事提供が出来る調理従事者であるという自覚をもって働く。

- ① 衛生管理を徹底し、安全な食事を提供する。
- ② 衛生帳票を記入漏れや誤りがないように毎日記録、月末に確認。
- ③ 厨房職員への衛生指導(衛生勉強会・確認テスト 全6回実施など)
- ④ 群馬県食品衛生協会に保存検食の検査依頼。(7月・9月)

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① 必要に応じた情報提供を行い、地域の栄養改善に協力する。
- ② 給食への関心を高めてもらう為、給食だよりを毎月発信。
- ③ 非常食の入れ替え時に、フードバンク活動支援団体に提供。
- ④ 定期的にデイスポ食器や非常食の見直しを行い、感染時・災害時に食事提供が滞りなくできるよう努めた。
- ⑤ クラスター発生時にデイスポ食器を使用し、感染拡大防止に協力することができた。
また、付加食品を活用し、栄養補助をすることができた。

2 職員研修会 (グリーンハウスグループで実施)

治療食対応の研修(5月 1名参加)

同時報酬改定の研修 (7月 6名参加)

アレルギー・誤配膳対応の研修(7月 1名参加)

MEDIC DIET の研修(9月 1名参加)

刺身衛生講習会 (9月 4名参加)

